

【厳島神社・宮島について】

厳島、通称宮島は、広島湾の北西に位置し、日本三景の一つとして広く知られています。

また、島内にある厳島神社は平安時代末期に平清盛が大きく発展させたことで、古くから高い知名度と人気を誇っています。社殿と大鳥居は海の中に建てられていますが、潮がひくと陸続きになり、海の上にあった大鳥居の下もくぐることができます。

その他にも、宮島水族館や弥山などの観光スポットも豊富で、大きなにぎわいをみせています。

これらのことから厳島は、広島を代表する場所となっています。

【厳島神社・宮島を見学して心に残ったこと】

私は、宮島について発表します。宮島は、時間によって、満潮や干潮と姿をかえます。それは、本当に美しく、それまでに写真などで見ていたものよりも、ずっと素晴らしくて、自然がつくる見事な景色に息を飲むほど感動しました。また、宮島にはたくさんのお土産屋さんがあります。広島名物のかきや、もみじまんじゅうなどが売られていました。お店の人々はとても生き生きとしていて活気があり、私も元気をもらいました。このように、日本三景の一つである宮島の、海と島の自然が見事に調和した、とても美しい景色は、とても心に残りました。

私は厳島神社で心に残ったものについて発表します。

まずは、平舞台です。広さが553平方メートルもあり、239本もの赤間石が平舞台を支えているそうです。

もう一つは、廻廊です。幅が4メートル、長さが275メートルにも及び、目透しという隙間が床板にあり、高潮で海水が下から押し上げる圧力を弱める働きをしています。

そして厳島神社は、ユネスコの世界遺産、平清盛とも深い関係があります。厳島神社へ信仰してきなさい。そう言われ行ってから清盛は厳島神社を大事にした、そのような言い伝えがあります。

以上が貴重な体験の中の私の心に残ったものです。

私は厳島神社の大鳥居を見学したことが心に残りました。

現鳥居は明治8年の再建です。平清盛の造営時から数え8代目とされています。

鳥居の棟（はしら）の高さは16.6メートルと、奈良の大仏様とほとんど同じ高さで、屋根の横の幅が24メートル、そして、その中まで工夫がありました。それは、約50トンの重さの石が入っており、それでバランスを保っているそうです。しかも、鳥居は根元が海底に埋められているのではなく、立てているだけだそうです。

このように大型な木造鳥居を造った昔の日本人の知恵の深さに驚きと共に、すばらしさに気づかせてくれた貴重な体験だったと思います。

【厳島神社・宮島を見学して学んだこと】

厳島神社について学んだことを発表します。

僕が厳島神社で学んだことは、昔の人の技術の素晴らしさです。

厳島神社は、弓状に広がる遠浅の浜に作られています。潮が引いているときには、有名な大鳥居まで歩いて行くことができ、潮が満ちているときには、社殿や回廊が、海に浮かんでいるように見えます。潮の満ち引きまで計算して作られた技術には、感心させられました。

また、社殿や回廊、大鳥居などに使われている朱塗りです。海の色や空の色との調和による美しさは有名です。昔は魔除け、虫除けとして活用されており、抗菌効果もあるそうです。見た目の美しさだけでなく、実用的なことも考えて作られていることに、驚きました。

宮島について学んだことを発表します。

宮島は、日本三景の一つで、五重塔や厳島神社、大鳥居などの国の重要文化財や国宝があります。それらを作ったのは何百年も昔の人です。現代の技術を使ってさえ難しいといわれる建造物を、見事に作ってしまう昔の人の知恵には感心させられました。

また、宮島には「もみじ饅頭」や「しゃもじ」などの名物があります。もみじは広島県の県木や県花になっており、宮島の美しいもみじをアピールするため、宮島でしか味わえないお菓子を作ったのだそうです。

しゃもじについては、お土産屋さんにもたくさん並んでいました。宮島のしゃもじは、福運を招く、縁起のよいものとして知られているとのことでした。

宮島の訪問を通して、宮島について詳しく学ぶことができました。

以上